



## 絆を深める子どもとの関わり方～家族を笑顔にするヒント～

### 【秋田県家庭教育フォーラム】



講話・演習中の後藤節子さん

9月4日(日)、県生涯学習センターで家庭教育フォーラムが開催され、47名が参加し、講話・演習や座談会が行われました。

講話・演習は秋田県児童会館長・NPO法人あきた子どもネット代表の後藤節子さんから「今日笑顔が明日への一步」の題でお話がありました。後藤さんからは児童会館を訪れる様々な親子の事例から、怒りを上手にコントロールし、明日の笑顔のために、「親である『わたし』がげんきであること」を強調されました。後半は話題提供者の発表の後、座談会形式で各テーブルで自由に日頃の悩みや相談事を話し合ったり、各団体の活動を紹介するブースを見学したりなどして、ざっくばらんな雰囲気が進められ、受講者に好評でした。

話題提供者の実践例紹介	子育て支援サポーター団体「CHERISH」 代表 加藤 未希 さん	会員20名で活動し、育児に関する情報交換をしたり、親子がリフレッシュできる場を提供したりしています。ランチを楽しめる親子カフェ、また、赤ちゃんから幼児、ママ向けのレッスン等様々な活動を行っています。
	あきたグット・トイ委員会 支部長 佐々木美喜子さん	「遊ぶ力は生きる力」をモットーに、良質なおもちゃと豊かな遊びを通じた支援活動を展開しています。おもちゃの広場や木育キャラバンの運営、協力、ワークショップを展開しています。
	パパ's サークル横手 ピーターパン 代表 長谷川聖史 さん 代表補佐 林 一輝 さん	家事や育児に積極的なパパさんたちと悩みや情報を共有し、より良い家庭環境づくりを目指して活動しています。イベントへの参加や自らの企画や実行もされており、子どもたちとのすてきな思い出づくりに励んでいます。

家庭に最も望むことは、どの年代の子どもも「家族のみんなが楽しく過ごすこと」という調査結果があります。後藤さんの講話・演習では、まず自ら元気があることと、笑顔の大切さを熱く語り、説得力があり心を打たれました。4人の話題提供者は、活動を通して心にゆとりをもって楽しく子育てに取り組むことにチャレンジしています。夫婦・親子が心にゆとりをもち、お互いを思いやると家族の絆を深めるとともに充実した家庭教育につながることを改めて実感できた機会となりました。



育児について語る加藤未希さん



良質なおもちゃについて語る佐々木美喜子さん



父親の育児について語る林一輝さん・長谷川聖史さん

## 学校に授業を見に行こう！ ～「地域と共に歩む学校の在り方」に学ぶ～

9月16日(金)に、実践講座の一環で**由利本荘市立岩城小学校**を訪問してきました。

岩城小学校は松ヶ崎小・道川小・亀田小の3校が統合し、開校3年目の新しい学校です。金利紀校長からは、コミュニティスクールとして大切にしていることについて、

- 1 地域住民の学校運営参画(学校運営協議会・熟議・みんなの登校日・学校評価)
- 2 地域力を活かした学校支援(学校サポート、地域の特色を生かしたクラブ活動)
- 3 学校力を活かした地域づくり(地域活性化・地域行事への協力)

との説明があり、多くの活動事例を紹介していただきました。

参観した「クラブ活動」の時間では、「あまさぎ太鼓」「ビームピストル」「なぎなた」など「ふるさといわき」に関連した12の活動を、地域住民や地域にある施設職員を指導者に招いて展開していました。いずれの活動も「本物の体験」であり、児童にとっても、地域の良さ、地域の人との交流を体感できる機会となっています。

協議会では、金校長の熱い学校経営の思いや、クラブ活動の指導者からも児童への温かい気持ちが伝わりました。

受講者からは、「校長先生のリーダーシップ、意気込みが素晴らしい」「男女、異学年が協力し、一緒に活動している姿がとても印象的でした」等の感想が寄せられました。



クラブ活動「ビームピストル」

コミュニティスクールとしての良さを十分に生かして、地域と一体になって子どもたちを育てている学校の在り方として、大変参考になる事例でした。従来、地域住民による学校支援・学校運営参画は、県内でも見られた事例ですが、岩城小学校はさらに「学校力を活かした地域づくり」を学校経営の柱に掲げていることが大きな特色です。学校運営協議会の機能を活かし、統合前の3地域から選出のコーディネーター、100名を超える支援サポーター、PTAとの連携・協力による学校運営の一端に触れることができました。

## リレーコラム

### ～家族を笑顔にする10のヒント～

あきたのそこのちから！

③

## 心をつなごう！ 家族でことばのキャッチボール

リレーコラムの6回目は、「コミュニケーション能力」についてです。

会話はコミュニケーションの基本です。子どもの言葉を、手を止め、目を見て、受け止めてあげましょう。会話を通して、子どもの「聞いてもらえた」「分かってもらえた」「認めてもらえた」という気持ちがふくらみ、親子の信頼関係も深まります。家庭での会話がいろいろな場面に生きてきます。

子どものうちからコミュニケーション能力の基礎を身につけさせたいのですが、そのためには何が必要でしょうか。それは、人の話を聞いたり話したりする力です。子どもが話をしはじめたら、親はそれに対してうなずいたり、反応を返したり、質問したりして、「ちゃんと聞いているよ」という態度をアピールしましょう。「いつ?」「だれと?」など、会話の中で大事な点について質問し、それに子どもが答えることを繰り返していくと、上手に伝える話し方のコツをつかみ始めます。子どもにとって、聞いてもらうことで安心感をもち、わかってもらえることで相手に対する信頼感が育ちます。

子どもとのコミュニケーションが一番取りやすいタイミング、それは食事をしている時です。平日は難しくても、仕事が休みの日には是非、家族そろって食卓を囲むようにしましょう。食事時の何気ない親子のことばのキャッチボールは、親子の信頼関係をさらに強くするはずですよ。